

「明治の二十九 基を定め」。本校校歌の冒頭の歌詞です。そして今年、佐倉市立志津小学校は、「基を定め」でから148年目を迎えました。昨年度に引き続き、校長を務めさせて頂きます、辻 太一郎（つじ たくお）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この148年の間に、日本や世界は自然災害や戦争を体験し、盛衰を繰り返しながら今日に至っています。しかし、どんな困難な時代も、子どもたちは本校を学び舎としてたくましく成長し、巣立っていきました。その陰には必ず、それを支えてくださった保護者の皆様や地域の方々の存在がありました。そのように積み重ねられてきた長い歴史に、新たな歴史を子どもたちや皆様と共に紡ごうとする、今この瞬間は、感動的でさえあります。また、校長室には、歴代校長41名の写真がずらりと並んでいます。その歴史のリレー選手として今自分にバトンが渡されていることを思うと、身が引き締まる思いです。

本校校歌の歌詞の最後は、「共に進まん 未来をめざし」です。子どもたちが歌う校歌ですから、「共に」の主語は、もちろん子どもたちです。ですが、私はこの「共に」に教職員、保護者の皆様、地域の方々も含まれていると、解釈しています。なぜなら、これら主語のそれぞれの力を結集すれば、コロナ禍においても子どもたちを「未来をめざし」進ませることができるからだと確信しているからです。

これは昨年度の話になりますが、卒業式前日、ある卒業生の保護者の方から「感染予防の観点から、式次第の君が代は、参加保護者は歌わないほうが、子どもたちも保護者も安心だと思います。」とのご意見をいただきました。これは「より安全でより素敵な卒業式にするために、学校に協力したい。」という思いからのご意見です。また、朝の検温と健康観察についても、全ての参加保護者の方がしっかりと行い、式に臨んでくださいました。うっかり検温を忘れた方が一人もいらっしゃらなかったことは、実はすごいことです。ここにも「より良い式にするために協力する」という思いが、形となって表れていました。本校が教育活動を推進できるのも、多くの方々の支えがあるからだとあらためて実感し、感謝の念を強くした次第です。

さて、本年度は、新1年生61名、全校児童395名、教職員30名、学級数15学級（通常学級12学級、すみれ学級3学級）という新たな装いでの出発となりました。子どもたちと教職員と心をつにし「チーム志津小」として取り組んでまいります。その強力な支えとなるのが保護者の皆様や地域の方々のお力添えです。本年度も本校の教育のために、引き続き温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

佐倉市立志津小学校長 辻 太一郎